

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀農業高等学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	・多くの生徒が志(夢や目標)を設定して学校生活を送ることができており、引き続き指導に力を入れていきたい。・学びの時間等により基礎学力や一般常識の定着はかなりできてきているが、家庭での学習習慣の定着を図りたい。・各科のそれぞれの専門性を活かした取り組みができており、引き続き発展・充実をさせるとともに、情報発信にも力を入れたい。・SGHの研究指定が4年を経過したが、最終年度には、研究の総括と終了後(R3以降)のグローバル教育を継承する体制作りが必要である。・中学校生徒数の減少に対する生徒募集は引き続き課題であり、学校の魅力発信やPRに力を入れていきたい。・多くの生徒が「思いやり」や「やさしさ」、「いじめを絶対許さない」という意識を持って学校生活を送ることができているが、「いじめ」の事案が多数発生しており、早期発見・早期対応に努めるとともに、相談しやすい環境作りを力を入れたい。
------------------	---

2 学校教育目標	教育理念:「農は国の基」 校訓:「質実剛健、明浄真正」 スローガン:「チャレンジ!佐農生~夢を実現するために~」 教育目標:「農業の専門教育を柱とし、様々な教育活動を通して、地域や社会に貢献できる有為な人材を育成する。」
----------	---

3 本年度の重点目標	(1)SGH研究の推進と継承 (2)学校情報の発信 (3)専門教育の充実
------------	--------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○学習習慣を身に付け、基礎学力の定着を図る。	○生徒の基礎学力を把握し、指導に活用する。 ○ブチテストの不合格者を各クラス5%以下にする。 ○家庭学習を毎日1時間以上する生徒40%以上。	・基礎学力診断テストの実施。 ・朝の「学びの時間」の実施。 ・ブチテストの実施。 ・家庭学習の奨励。	B	・基礎学力診断テストを学期ごとに(2回)実施し、生徒の基礎学力を把握し、指導に活用することができた。 ・教科や回によってはブチテストの不合格者を5%を超えた。引き続き指導が必要である。 ・家庭学習を毎日1時間以上する生徒は25.0%であり、意識付けの強化が必要である。	B	・基礎学力診断テストを学期ごとに(3回)実施し、生徒の基礎学力を把握し、指導に活用することができた。 ・ブチテストの不合格者5%以下を3クラスで達成した。 ・家庭学習を毎日1時間以上する生徒は16.1%と、さらに減少した。	B	・小・中学生を見てもそうだが、佐農生に限らず家庭学習の時間は減少傾向にあるのではないかと。 ・家の手伝いをしている生徒もいると思うので、その状況を調べてみてはどうか。	教務主任 進路指導主事 各担任
	○ICTを効果的に活用し学力の定着を図る。	○ICTを使った授業を5回以上行った職員100%。 ○ICTを使った授業により教科の興味関心が高まった生徒80%以上。	・ICTを活用した授業公開週間等を実施。 ・職員研修の実施	C	・ICTを使った授業を5回以上行った職員は、約6割であった。授業公開週間等で引き続き取り組むたい。 ・ICTを使った授業により教科の興味関心が高まった生徒は、50.3%以上であった。	B	・ICTを使った授業を5回以上行った職員は、70.3%であった。 ・ICTを使った授業により教科の興味関心が高まった生徒は、57.8%であった。	B	・専門高校は、授業でよくICTを使っていると思う。「ICTを使った授業」の捉え方に差があるのではないかと。「ICTを使った授業」の具体を示してアンケートをとる必要があったと思う。	教務主任 ICT活用教育推進委員 各教科担当者
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。	○奉仕活動や専門教育を通して他者への「思いやり」「やさしさ」を身に付けることができた生徒80%以上。	・全校ボランティア活動の実施。 ・専門性を活かした地域との連携事業の実施。	A	・奉仕活動や専門教育を通して他者への「思いやり」「やさしさ」を身に付けることができた生徒は84.6%であった。	A	・奉仕活動や専門教育を通して他者への「思いやり」「やさしさ」を身に付けることができた生徒は84.7%であった。	A	・ボランティア活動等の様子を見ても、佐農生は、素直で頑張っている。	教務主任 生徒会主任 農場長・学科主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実。	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。	B	・いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員64.9%であった。引き続き強化を図りたい。	A	・いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員81.8%であった。	A	・先生方の意識づけができていようと感じる。職員の連携もとれているのではないかと。	生徒指導主事 保健主事 教育相談担当
	○ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動。	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒90%以上。	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。 ・連携事業やフィールドワークの実施。	B	・「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒67.4%であった。	B	・「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒65.74%であった。	B	・数値目標「90%以上」は、高すぎるのではないかと。海外に行く、日本のよさ、佐賀のよさがわかる。	教務主任 「佐賀を誇りに思う教育」推進担当
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成。	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上。 ○毎日朝食をとって登校する生徒80%以上。	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施。 ・保健だよりの発行。 ・生徒保健委員等による啓発活動。	A	・「健康に食事は大切である」と考える生徒は、97.2%であった。 ○毎日朝食をとって登校する生徒は、90.4%であった。	A	・「健康に食事は大切である」と考える生徒は、96.9%であった。 ○毎日朝食をとって登校する生徒は、93.5%であった。	A	・食に関する意識が高いように思うが、農業高校なので、食に関する意識を高くもってもらいたい。	保健主事 「食育」推進担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(1月45時間、1年360時間)	・定時退勤日の設定(水曜日) ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・在校時間の最終時刻の設定(19:30) ・業務改善の工夫	C	・「1月45時間」を遵守できている職員は29.5%(13人)であった(10月末)。さらに時間外勤務削減に向けた工夫や意識改革が必要である。	C	・「1月45時間」を遵守できている職員は29.5%(13人)であった(2月末)。さらに時間外勤務削減に向けた工夫や意識改革が必要である。	C	・学校現場のことをいろいろ耳にすることがあるが、やむを得ないように思う。人手がたりていないのではないかと。	管理職
	○年次休暇取得の促進。	○年間12日以上(月1日以上)の年休取得、60%以上。	・年休取得予約表の活用。 ・年休を取得しやすい職場づくり。	C	・7日以上年休が取得できている職員は37.3%(19人)であった(10月末)。さらに取得促進の意識改革が必要である。	C	・11日以上年休が取得できている職員は45.1%(23人)であった(2月末)。さらに取得促進の意識改革が必要である。	C	・企業は、有給休暇消化日を設け、社員が定期的に取得できるようにしている。	管理職

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○SGH研究の推進と継承	○SGH研究をさらに推進させ、成果をまとめるとともに、次年度以降への継承を図る。	○SGH活動を通して、グローバルな視点が身についた(視野が広がった)という生徒70%以上。 ○5年間の研究指定の成果を検証し、まとめる。	・生徒協働型教育プログラムの開発 ・教科分業型教育プログラムの開発 ・ICTを活用した主体的・協働的学習支援プログラムの開発。 ・R3以降のグローバル教育継承のための組織作り。	B	・SGH活動を通して、グローバルな視点が身についた(視野が広がった)という生徒48.3%であった。 ・5年間の研究指定の成果を検証し、成果をまとめるとともに、次年度以降に向けた継承を検討している。	A	・SGH活動を通して、グローバルな視点が身についた(視野が広がった)という生徒63.3%であった。 ・5年間の研究指定の成果を検証し、成果をまとめるとともに、次年度以降に向けた継承を検討している。	A	・生徒たちは成長した。SGH事業はいい取組だったので、次年度についでほしい。	SGH研究主任 教務主任 各学科主任 各教科主任
○専門教育の充実	○地域資源を活用した農業3科の特徴ある取り組みの実践と地域連携・地域貢献を推進する。	○地域や関係機関との連携事業を各科とも年間3回以上実施する。 ○所属学科の専門学習へ興味関心をもって取り組んでいる生徒90%以上。	・地域や関係機関との連携事業の実施。 ・地域に根ざすとともに、時代の変化に対応した農業教育を見直す。	A	・地域や関係機関との連携事業を各科とも年間3回以上実施することができた。 ・所属学科の専門学習へ興味関心をもって取り組んでいる生徒82.0%であった。	A	・地域や関係機関との連携事業を各科とも年間3回以上実施することができた。 ・所属学科の専門学習へ興味関心をもって取り組んでいる生徒84.7%であった。	A	・特色ある学校づくりは重要である。専門性を生かし、佐農の持ち味を発揮してほしい。	各学科主任 農場長
○学校情報の発信	○学校情報を適宜発信し、学校の魅力をPRすることで、学校活性化や生徒募集に繋げる。	○学校情報を適宜発信し、学校の魅力の発信が十分にできているという職員90%以上。 ○入試の志願倍率で、各科1.0倍以上、全体で1.2倍以上を目指す。	・「佐農だより」を月1回発行し、関係機関や保護者へ配布する。 ・学校HPを充実させ、適宜を更新する。 ・学校PRポスターを更新し、関係中学校に掲示する。 ・学校紹介プレゼンを更新する。	B	・学校情報を適宜発信し、学校の魅力の発信が十分にできているという職員84.2%であった。 ・第1回進路希望調査で1.12倍、第2回進路希望調査で1.04倍であった。	B	・学校情報を適宜発信し、学校の魅力の発信が十分にできているという職員90.9%であった。 ・第1回進路希望調査で1.12倍、第2回進路希望調査で1.04倍、一般入試の志願倍率は0.97倍であった。	B	・「佐農祭」が中止になるなど、地域へのインパクトのある情報発信ができなかったのは残念。子供が少なくなる中、更なる情報発信に努めてほしい。	管理職 教務主任 広報担当

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・基礎学力診断テストや学びの時間等により基礎学力や一般常識の定着はかなりできてきている。しかし、依然として家庭学習の習慣化ができていない。指導の工夫が課題である。・先生方のICTを活用した授業実践はかなり浸透しており、そのことが生徒の学びの深まりにも繋がっているといえる。・専門の学習活動を通して、多くの生徒が他者への「思いやり」や「やさしさ」を身に付けることができていく。「いじめ」や「悩み」に対する相談体制や事案への組織的対応は良くできていると思われるが、生徒の相談しやすい環境づくりはもっと改善していきたい。殆どの生徒が食事を大切だと思え、きちんと毎日朝食がとれている。SGHの研究指定(5年間)が終了し、多くの成果を残すことができた。来年度以降は、創意工夫をしながら、その成果を継承していくことが課題である。・各科の専門性を活かした特徴ある取り組みができており、引き続き発展・充実をさせたい。・引き続き中学校生徒数が減少するなか、入試の生徒募集は大きな課題であり、学校の魅力発信やPRには新たな対策が必要である。
----------------	--